

鳴虫山山行報告

【山行日】2022年 5月 8(日) 晴れ

【集 合】栃木市運動公園P AM 7:30

【費 用】マイカー2台 : 1,400円

【メンバー】CL:鈴木、 SL:大西

安西、大塚、小松原、嶋田、島田、関、
廣瀬、福島、藤原フ、吉田、渡辺

【コースタイム】栃木市運動公園 P7:30＝

含満ヶ淵 P8:20/8:35～鳴虫山登山口 9:20～

神主山 10:00/10:10～鳴虫山 11:40/12:20～

合峰 12:40～独標 13:20/13:30～含満ヶ淵

P14:15/14:30＝栃木市運動公園 P16:00



日光の鳴虫山に登りたいというリクエストがあり、久しぶりに計画した。アカヤシオの花は終わってしまっているが、トウゴクミツバツツジやヤマツツジは咲いているかもと、期待しながら栃木市運動公園を出発した。東北自動車道から日光宇都宮道路を走り、日光 IC で降りて含満ヶ淵の駐車場に車を止める。準備を整えトイレを済ませ、ストレッチを行ったら出発する。



大谷川沿いに住宅街を進み、神橋の先で右に橋を渡り御幸町の信号を右折する。すぐに左折して、右の橋で志土渡淵川を渡ると鳴虫山登山口の案内標識が立つ。

小休止して衣服調整を行い、水分を補給する。ここからは登山道を登るようになり、九十九折れの道を10分も登ると天王山と呼ばれ

る高台に着く。スギ林の登山道を登るようになり、やがて時々展望が開ける雑木林の道を登って行く。この先で尾根を直登する旧道と合わさり、

笹の道をひと登りで神ノ主山山頂に着く。休憩を取りリンゴや菓子をいただき、眼下の日光市街の眺望を楽しむ。日光連山も望めるはずだが、あいにくの曇り空で男体山は

見ることが出来なかった。神ノ主山から鳴虫山までは眺望のきかない尾根道を登って行く。左手はスギやヒノキの植林帯で、右手は自然林の明るい林と対照的な道だ。930m

ピークからの尾根は、北側の斜面にアカヤシオの花が見られるはずだが、すでに終わっていて花が登山道に落ちていた。

930m

ピークからの尾根は、北側の斜面にアカヤシオの花が見られるはずだが、すでに終わっていて花が登山道に落ちていた。

930m

ピークからの尾根は、北側の斜面にアカヤシオの花が見られるはずだが、すでに終わっていて花が登山道に落ちていた。

930m



明るい新緑の尾根を気持ちよく登って行くが、ピークをいくつも越えて行き中々山頂にたどり着かない。



。今度こそ山頂だと思って登るが、ピークに着くとその先にまだピークが見える。30年ぶりに登る鳴虫山は結構手強くて、最後の急坂を必死で登り切り2等三角点が置かれた鳴虫山山頂に着く。山頂では大勢の登山者が休憩してランチを楽しんでおり、我々も記念写真を撮ったら南側に陣取りランチタイムとする。

お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、おにぎりやパンを美味しくいただく。出汁巻き卵や唐揚げ、漬物などが出され、皆さん美味しそう

に食べていた。ランチが済んだら下山開始し、北側の急な尾根を注意して下って行く。自然林の明るい尾根で、トウゴクミツバツツジの花が目を楽しませてくれる。やがて平坦な尾根歩きとなり、鞍部からゆるやかに登り返すと1084mの合峰

に着く。小休止して記念写真を撮り、果物で喉を潤したら出発する。ここからは植林帯の急斜面を下って行くが、木の根や立ち木に掴まりながら慎重に下って行く。鞍部まで下り、軽く登り返すと925mの独標に着く。ヤマツツジが綺麗なピークで、記念写真を撮ってマンダリンやゼリーをいただく。

ここから最後の急坂を下るが、登山道がえぐられて木の根が露出しとても歩きにくい。先行の大パーティーが苦戦しており、大きな段差でしばらく待たされる。

やがて広い草原に下り立ち、平坦な道を進むと第一発電所に出る。すぐ先で日光宇都宮道をくぐり、車道に出て大谷川沿いに進むと含満ヶ淵へと入り、日光八景のひとつである化け地蔵が並んでいる。奇岩の溪谷沿いに赤いエプロンかけたお地蔵様が並ぶ風景は、まさに日光八景にふさわしい光景である。含満ヶ淵駐車場に戻り、トイレを済ませて靴を履き替えたら帰路につく。途中、西方PAIに寄ってトイレ休憩を取り、予定通り栃木市運動公園Pへ帰着した。

